2023 年 7 月 23 日
宮崎中部教会主日礼拝
牧師　乾元美

詩編 105：1～6
ローマの信徒への手紙 12：1～2
「感謝をあらわす生活」
ハイデルベルク信仰問答　第三部　全生活にわたる感謝　問 86～87
（※問答は日々の祈りをご覧ください。）

【招詞】申命記 6：4～5
【讃美歌】24「たたえよ、主の民」
【詩編交読】詩編 6 編
【赦しの宣言】イザヤ書 55：7「主に立ち帰るならば、主は憐れんでくださる。
わたしたちの神に立ち帰るならば／豊かに赦してくださる。」
【讃美歌】8「心の底より」
【祈祷】
【聖書】詩編 105：1～6、ローマの信徒への手紙 12：1～2
【説教】「感謝をあらわす生活」
＜第三部へ＞
　今日から『ハイデルベルク信仰問答』第三部に入ります。第三部は、「感謝について」という題が付いています。
　これまで、ハイデルベルクでは、第一部でまず「人間の悲惨さについて」ということが語られました。わたしたち人間の、神さまに背く罪の深刻さと、その悲惨さについてです。
　そして、次の第二部は、「人間の救いについて」でした。救い主イエス・キリストによって、わたしたちに与えられる、罪からの救いについてです。
　この第二部では特に、宗教改革における、重要なポイントが語られていました。それは、救いというものは、わたしたちの善い行いや、徳を積むなどの功績によって与えられるのではない、ということです。救いは、ただ神さまの恵みによって、イエスさまが十字架によって成し遂げて下さる御業によって、わたしたちに与えられます。
　その、成し遂げられたイエスさまの救いを、わたしたちは、聖霊に導かれる信仰によって、自分自身の救いとして、ただ、受け取るだけなのです。
　恵みのよってのみ。信仰によってのみ。これが、大切です。

　そして、救いを受け取った後のことが語られているのが、今日から始まる第三部、「感謝について」です。罪の悲惨から、ただ神さまの恵みによって、ただイエスさまを信じる信仰によって救われた者は、神さまに感謝する生活を歩むようになります。
　ハイデルベルクは、第一部から三部までの構成全体で、罪人が、イエスさまに救われ、そして救われた者として感謝して生きていく、という、信仰者の歩みを辿っているのです。

＜善い行いの位置づけ＞
　そういうわけで、第三部の最初の問 86 は、この第一部と第二部からの流れを踏まえています。まず、その問いを読んでみたいと思います。こうありました。
　「問 86　わたしたちが自分の悲惨さから、自分のいかなる功績にもよらず、恵みによりキリストを通して救われているのならば、なぜわたしたちは善い行いをしなければならないのですか。」
　ここでは、わたしたちが、自分の罪の悲惨さから、自分のいかなる功績にもよらず、自分の善い行いなどによらず、ただ恵みによって、キリストを通して救われた、という、まさに第一部と第二部の要約が語られています。

　わたしたちは罪の悲惨さの中から、救っていただくために、神さまから、どんな善い行いも求められませんでした。救いをいただくために、何を差し出すこともしていないし、どのような条件も、資格も、問われませんでした。そもそも、罪に陥ったわたしたちは、自分の罪を赦してもらうために出来ることなど、何一つなかったのです。
　わたしたちに出来ることは、ただ、イエスさまが差し出して下さった救いを、わたしの救いであると確信して、心から信頼して、受け取る、ということだけでした。
　そして、神さまは、それで良しとして下さいました。神さまは、そのようにしてわたしたちの罪を、ただイエスさまの救いを信じる信仰によって、赦して下さったのです。

　しかし、かつて宗教改革が起こる前。教会は、聖書の教えから少しずつ離れてしまい、人が救われるためには、信仰と、それぞれの善い行いが必要である、と教えていました。
　これはある意味、分かりやすい教えだったと思います。善い行いをすれば、その報いとして救いを得られる。善い行いを重ねれば、自分の罪を減らしていくことが出来る。
　また、それは、善い行いをする動機づけとしても、十分なものだったでしょう。

　しかし聖書は、わたしたちの罪は、わたしたちの善い行いで解決するほど簡単なものではない、と教えています。神さまに背き、逆らう罪。それは、わたしたちが自分で滅びて死ぬことでも事足りず、神の御子イエスさまが、十字架という呪われた死を死ななければ、償うことが出来ないほどの罪だったのです。
　わたしたちは、自分の罪の前に、まったく無力である。自分の罪を償うために、自分では何をすることも出来ない。これが、わたしたちの悲惨な罪の現実だったのです。

　その罪の深刻さを知る中で、宗教改革者たちは、聖書の福音を再発見しました。
　わたしたちは無力で、悲惨で、弱い者である。どうしようもない罪人である。
　でもだからこそ、神の御子イエスさまが、わたしたちの救いに必要なすべてを、ただ恵みによって、与えて下さるのだ、ということです。
　これこそ、聖書が語っている、わたしたちの救いなのです。

しかし、この福音の再発見に対して、このような疑問が生じてきました。
それは、もし救いが、ただ恵みによって与えられるものであるならば、わたしたちの善い行いには、もはや一切の価値がないのだろうか。善い行いなしに救われるなら、もはや、今後も善い行いをする理由は、何もないのだろうか。そういう問いです。

宗教改革者はこれに応えて、聖書から、明確に人間の善い行いの意味を位置づけました。
それは、神さまに救われた者は、その恵みに満たされ、感謝に溢れることによって、善い行いを喜んでする者になる、ということです。
善い行いは、自分が救われるためにするものではありません。自分を救えません。救いは、イエスさまによってのみ、与えられるものです。
だから、わたしたちは、ただ恵みによって救われた者として、そのイエスさまの救いに心から感謝して、その神さまの愛にお応えする生き方として、「善い行い」をするのです。

＜生まれ変わらせられて＞
…わたしたちは、神さまの救いに感謝して、善い行いをする。そうであるならば、それは、今ここにいる、わたしたち皆の行い、わたしたち皆の生活であるはずです。
わたしたちは、神さまに喜ばれる、善い行いを、日々行っているでしょうか。神さまへの感謝に溢れて、毎日の生活を送っているでしょうか。

…わたしたちは、イエスさまを信じて、洗礼を受けたら、すぐに感謝に溢れた、神さまに喜ばれる生活が出来るようになる、という訳ではありません。
相変わらずの悪い習慣もあるでしょうし、中々性格は変えられないし、自分の利益を優先して行動してきた人が、急に他の人のために尽くし始める、なんてことは出来ないでしょう。

確かに、わたしたちは、自分の善い行いによってではなく、この罪人であるままで、何も出来ないままで、神さまに受け入れられ、罪を赦され、救いに与りました。
ですから、わたしたちは、罪を赦された「罪人」なのであり、なお罪を犯してしまうことはあるのであって、洗礼を受けた途端に、何か突然、完璧な、清く正しい善人になれるわけではないのです。でも、だからと言って、仕方ないと、開き直ってはいけません。

わたしたちが救いに与った、ということは。わたしたちは、神の御子イエスさまと、一つに結ばれてしまった、ということです。
そうしてわたしたちは、自分の罪を、すべてイエスさまにお渡しし、イエスさまの十字架と共に磔にしてもらったのです。そして、わたしたちは、イエスさまの復活の命をいただいて、神さまと共に生きる者とされ、「神の子」とさえ、呼ばれるようになったのです。
もはや、わたしたちは、罪に属する者ではないし、自分自身のものでもありません。わたしたちは、イエスさまのもの、神さまのものとなったのです。

そうであるならば、わたしたちがイエスさまに結ばれて、罪に捕らわれていた時のまま、何も変わらないでいい、ということはありません。そのままではいられません。
イエスさまと一つにされて、イエスさまの恵みを受けるならば、イエスさまの命に生かされるならば、わたしたちはイエスさまによって、変えられていくのです。
わたしたちが変わる、ということは、何か自分で心機一転、心を入れ替えるとか、覚悟を決めて行動を変えるとか、そういうレベルのことではありません。
救われた者は、自分の存在の在り様が変わるのです。罪の中に立つ者ではなく、イエスさまの中に立つ者となるのです。自分の力で生きる者ではなく、イエスさまの恵みに生かされる者となるのです。自分の生きたい方向に進むのではなく、神さまの方向へ進む者となるのです。

わたしたちが、救いに与る、ということは、イエスさまのすべてを、わたしのものとしていただく、ということです。イエスさまの十字架の死も、復活の命も、神の子の身分も、恵みも、栄光も、正しさも、すべてをわたしのものとして、いただいたのです。
そして、それは一方で、わたし自身を、イエスさまにすべてお渡しする、ということでもあります。わたしの弱さも、罪も、死も、人生も、命も、すべてを委ね、すべてを受け止めていただくのです。
そうする中で、わたしたちは、変わるのではなく、変えていただく。イエスさまが、わたしたちを生まれ変わらせて下さるのです。
生まれ変わらせられたことは、すぐ自分の手ごたえとして、目に見えて感じられることではないかもしれません。でも、日々、恵みに生かされる中で。感謝の思いの中で。悔い改めの中で。聖霊によって、少しずつ成長させられ、整えられていくものなのです。

問 86 の答えの初めには、こうありました。「なぜなら、キリストは、その血によってわたしたちを贖われた後に、その聖霊によってわたしたちを御自身のかたちへと、生まれ変わらせてもくださるからです。」キリストは、聖霊によって、わたしたちをご自身のかたちへと、生まれ変わらせてくださいます。
わたしたちは本来、神さまと共に歩み、神さまと響き合う、「神のかたち」に創造されたのに、罪を犯して、神さまに背き、逆らうことで、打っても響かない、ボコボコの罪のかたちになってしまいました。
でも、イエスさまと結ばれて、イエスさまを着せられて、その罪を赦されることによって、わたしたちは、神さまの呼びかけに答え、従い、共に生きる、神のかたちに、再び回復させられた。神さまと響き合う「神のかたち」に、生まれ変わらせてくださったのです。
わたしたちを変えるのは、わたしたちではなく、神さまの御力です。

＜変えていただく＞
今日のローマの信徒への手紙 12：1～2 にも、このようにありました。

「こういうわけで、兄弟たち、神の憐れみによってあなたがたに勧めます。自分の体を神に喜ばれる聖なる生けるいけにえとして献げなさい。これこそ、あなたがたのなすべき礼拝です。あなたがたはこの世に倣ってはなりません。むしろ、心を新たにして自分を変えていただき、何が神の御心であるか、何が善いことで、神に喜ばれ、また完全なことであるかをわきまえるようになりなさい。」

自分の体を神の喜ばれる聖なる生けるいけにえとして献げなさい。これは、イエスさまに救われた、教会の兄弟姉妹たちに語られている言葉です。

救われたあなたたちは、もう自分のものではなく、神さまのものである。だから、あなたの体を、心を、そのすべてを、神さまに喜ばれる、聖なる、生けるいけにえとしなさい。あなた自身を、神さまのためのものとしなさい。そう言われています。それこそ、なすべき礼拝であると。

そして、あなたが神さまのものとして歩むなら、もはや、この世に倣ってはならない。この世に合わせるのではなくて、神さまの心に合わせて、歩みなさい。そう言われています。

そして、その神さまの御心が分かるようになるためには。何が善いことで、何が神に喜ばれ、何が完全なことであるかを知るようになるためには、「心を新たにして、自分を変えていただきなさい」とあるのです。

ここでは、「あなたが、心を新たにして、自分を変えなさい」と言われているのではありません。「自分を変えていただきなさい」。「聖霊によって、変えられなさい」。そう言われているのです。

わたしたちは、神さまの力によって、イエスさまの恵みによって、聖霊の導きによって、新しくされるのです。変えられていくのです。

そうして、わたしたちが、神さまを喜び、また神さまが、わたしたちを喜んでくださる、そのような、神さまと共に歩む恵み豊かな命を、歩んでいくことが出来るのです。

でも、わたしたちが変えられる、というのは、何か自分の意志がなくなるとか、言うことを聞くロボットみたいになるとか、そういうことでは、もちろんありません。

神さまは、わたしたちの体も、心も、気持ちも、意志も、大切にして下さいます。だからこそ、わたしたちを御自分に似せて、「神のかたち」に造ってくださったのですし、自由を与えて下さったからこそ、わたしたちは背いて、罪を犯すということもしてしまったのです。

でも、イエスさまの十字架の死によって、罪を赦されたわたしたちは、神さまがどれほどわたしを愛して下さっているか。憐れんで下さっているか。わたしが滅びることを望まず、共に生きること、豊かな交わりを持って歩むことを望んで下さっているかを、知らされたはずです。

わたしたちは、この恵み深い、天の父なる神さまに、心から感謝して、心から信頼して、心から自分を委ねて、心から愛して歩みたいと、そう願わずにおれるでしょうか。

＜善い行いの目的＞
　さて、わたしたちが、新しく変えられ、そのような歩みへと導かれる時。神さまに喜ばれる、感謝の生活へと向かわされていく時。今日の信仰問答は、それが三つのことを現わしていくと語っています。

　一つは、問 86 の答えの真ん中にあるように、「それは、わたしたちがその恵みに対して全生活にわたって神に感謝を表し、この方がわたしたちによって賛美される」ということです。
　神さまに背き、自分勝手に歩み、自分の力により頼んでいたわたしたちが、神さまに感謝するようになること。神さまを中心に、生活するようになること。礼拝を大切にするようになること。神さまにより頼み、祈るようになること。善い行いへと促されていくこと。
　それは、わたしたちが自分でそうなったのではなく、神さまがわたしを救ってくださったから、そうなったのです。
　ですから、救われたわたしたちの感謝の生活は、わたしたちをそのように変えて下さった、神さまの御名が賛美されることへと繋がるし、神さまに栄光を帰すことになるのです。

　二つ目には、その答えの続きで、「さらに、わたしたちが自分の信仰をその実によって自ら確かめ」とあります。
　日々の一つ一つの歩みにおいて、わたしを生かし、守って下さる神さまに、感謝をささげる。困難や、苦しみの時には、神さまに助けを祈り求める。誰かが悩みの中にあれば、その人のために神さまに祈る。
　わたしたちは、イエスさまに接ぎ木されて、イエスさまの恵みを受けて、イエスさまと共に生きていく中で、少しずつ成長し、信仰の実を実らせてゆきます。ますます神さまを愛し、ますます神さまに頼るようになります。
　そんな自分に、ふと気づく時があるかもしれません。不安な時に、神さまに頼る自分がいる。過ちを犯せば、神さまに罪の赦しを願う自分がいる。孤独な時、共にいて下さるイエスさまを思う。困っている隣人を放っておけない気持ちが起こされる。
　日々の少しの、小さな変化かも知れません。でも、これこそ、イエスさまに結ばれていることによる、確かな実りであり、信仰が与えられ、また成長させられている証拠なのです。
　そうしてわたしたちは、日々のあらゆることを通して、生活を通して、人生を通して、自分に与えられた信仰を、確かなものとされていきます。

　そして三つ目には、「わたしたちの敬虔な歩みによって、わたしたちの隣人をもキリストに導くためです」とあります。
　「わたしたちの敬虔な歩みによって」と言われると、ちょっと尻込みするかも知れません。
　でもこの、「敬虔な歩み」というのは、先ほど言ったように、わたしたちがイエスさまを信じることによって、不安な時にも拠り所を持っていたり、生活の中に祈りがあったり、信仰による平安や、感謝や、喜びを与えられている、ということだと思います。
　わたしたちは、暗い、争いばかりの、悲惨な、闇のような世の中を歩んでいます。

でも、そんな世界の中で、神さまに信頼し、一つ一つのことに感謝し、また人のために執り成し祈り、隣人を愛そうとする者がいるということ。
それは、周りの人々に、とても良い違和感を与えると思います。この人を、安心させているものはなにか。この人が、祈っている相手は誰か。この人が、頼っているものは何か。
わたしたちが、まことに神さまに自分を委ねて歩んでいるなら、その歩み自体が、生活すべてが、神さまの恵みを証しするものとなるのです。そして、隣人を、この恵みへと、イエスさまへと、導くものとされるのです。

わたしたちは、このような、感謝の生活へと招かれています。感謝は、しなければならない、というものではありません。受けたものに対して、自然に心の奥底から湧き上がってくるものです。
わたしたちの信仰生活は、神さまから溢れるほどに恵みを与えられるところから始まりました。この恵みに満たされて、新しくされて、生まれ変わらされて。わたしたちは、神さまに喜ばれる、豊かな信仰の実を結ぶような、心からの感謝の生活を歩んでゆきたいのです。

【お祈り】
天の父なる神さま　御名をほめたたえます。
わたしたちは、ご自分の命さえ惜しまず捨てて、わたしたちの罪を贖って下さった、イエスさまの、あまりに大きな愛と恵みに、どうお応えしたらよいか分かりません。どれだけ感謝の思いを抱いても、足りないように思います。
しかし、聖霊によって、わたしたちと一つになって下さったイエスさまが、罪の赦しと共に、わたしたちを新しく変えて下さり、これからも恵みを注ぎ続け、わたしたちを潤し続けて下さいます。どうかわたしたちが、イエスさまから、素直にその恵みを受け取って、感謝の実を、豊かに結ぶことが出来るようにして下さい。
また、恵みによって与えられた、わたしたちの信仰生活が、おささげする礼拝が、感謝の日々が、あなたの御名をあがめ、栄光を帰すものとなりますように。
そして、イエスさまと共に生きる恵みと喜びが、隣人にも伝わりますように。
このお祈りを、イエスさまの御名によってお祈りいたします。アーメン

【讃美歌】513「主は命を」
【信仰告白】ニカイア信条
【十戒】
【献金】65-1「今そなえる」
【主の祈り】
【祈祷】
【讃美歌】29「天のみ民も」
【祝福】主があなたを祝福し、あなたを守られるように。
主が御顔を向けてあなたを照らし あなたに恵みを与えられるように。
主が御顔をあなたに向けて あなたに平安を賜るように。
主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、
あなたがた一同と共にあるように。アーメン